

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年12月18日（木）

2 確認箇所

- ・地下水バイパス一時貯留タンクエリア（図1）
- ・瓦礫類一時保管エリアN（図1）

3 確認項目

- （1）地下水バイパスの排水状況
- （2）瓦礫類一時保管エリアNの状況

4 確認結果の概要

（1）地下水バイパスの排水状況

福島第一原子力発電所では、原子炉建屋等に流入する地下水量を低減させるため、地下水バイパスやサブドレン他水処理施設などを設置し、基準を満足した地下水を定期的に海洋へ排水している。

今回は、地下水バイパス一時貯留タンク（グループ3）からの排水が予定されていることから、その状況を確認した。（前回確認：令和7年9月18日）

- ・東京電力の社員が、手順に従い排水のライン構成を行っていた。排水のライン構成については、集中監視室からの指示を受け、現地で呼称指差し確認をしながら実施されていた。また、操作完了後は手順毎に集中監視室へ報告がなされていた。（写真1）
- ・東京電力の社員が、排水を行うグループ3の排水弁を「全閉」から「全開」にする作業を実施した。（写真2）
- ・集中監視室からの遠隔操作により排水ポンプが起動した。その後、東京電力社員がポンプ起動後の状況、ポンプ及び周囲の配管に異常が無いことを確認していた。（写真3）
- ・排水開始後、目視の範囲で異常は確認されなかった。
- ・当日の排水実績は次のとおり。

排水開始時刻：10時13分

排水終了時刻：15時39分

排水量：1,483m³

（2）瓦礫類一時保管エリアNの状況

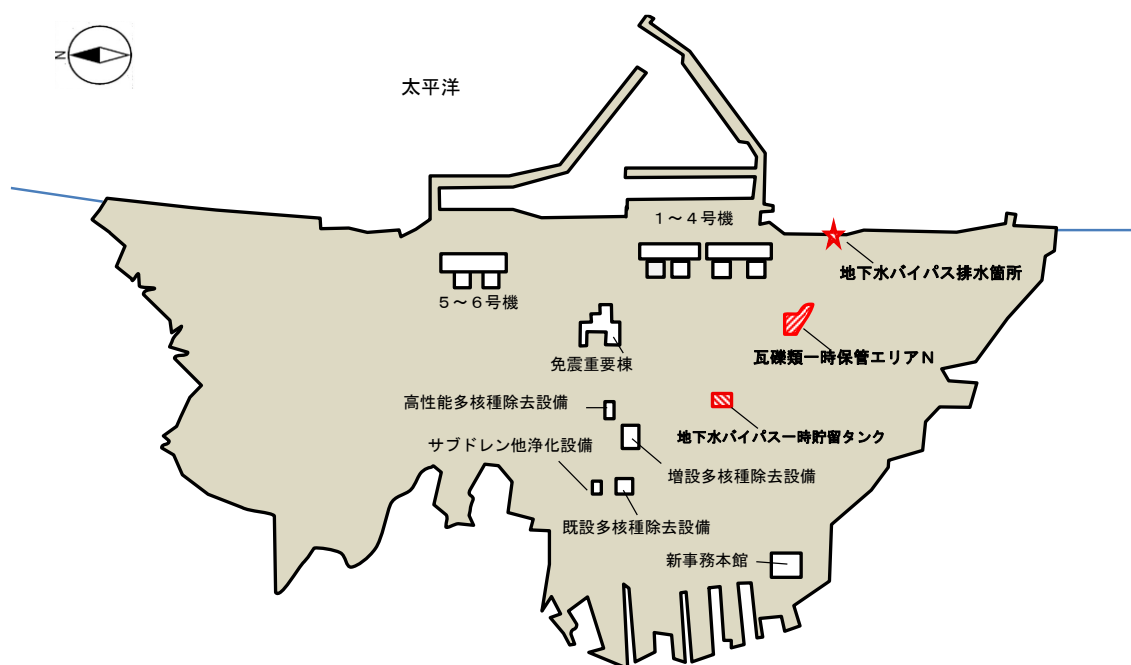
東京電力は水処理二次廃棄物及び再利用・再使用対象を除く全ての固体廃棄物の屋外における一時保管を令和10年度中に解消することを目指している。その一環として、瓦礫類一時保管エリアN（以下「エリアN」と

いう。)においてノッチタンクに保管されている汚染土壌※を別の保管容器に入れ替え、固体廃棄物貯蔵庫へ運搬する計画としている。

6月末からエリアNでの作業が開始されたことを受け、県では入れ替え作業の状況を適宜確認している。本日も、作業の進捗状況や安全対策の実施状況等について確認を行った。(前回確認：令和7年10月22日)

- ・当日の作業計画では、仮堰の積み込み、運搬、荷下ろしや資材移動及び100tクレーンの撤去準備等が予定されていたが、現場確認時間帯が作業休憩時間に当たっていたため、これら作業は行われていなかった。
- ・汚染土壌の入れ替えに使用している100tクレーンは、平坦で安定した場所に設置されており、アウトリガーの張り出しも適切に行われていた。また、確認した範囲において、クレーン車作動油の漏えい等の異常は認められなかった。(写真4)
- ・確認した範囲において、ノッチタンクからの内容物の漏えい等は認められなかった。(写真5)

※ 平成25年及び平成26年に発生したタンクエリアからの汚染水漏えいにより汚染した土壌。これらの土壌は土のう袋に回収され、ノッチタンクに入れて保管されている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1 ①) ライン構成の状況



(写真 1 ②) 集中監視室への報告



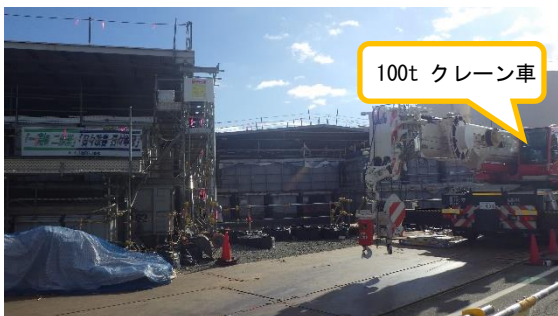
(写真2) 排水弁の全開作業



(写真 3) ポンプ起動後の確認



(写真 4 ①)
エリアN外観
※南西側から撮影



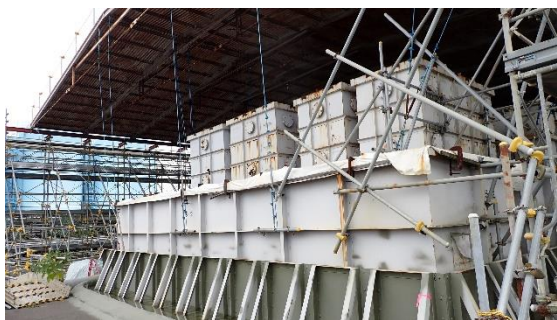
(写真 4 ②)
エリアN外観
※北西側から撮影



(写真 4 ③)
100 t クレーン車の設置状況①



(写真 4 ④)
100 t クレーン車の設置状況②



(写真 5 ①)
ノッチタンクの保管状況①



(写真 5 ②)
ノッチタンクの保管状況②

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。